

先日、1年生の「進路ガイダンス」があった。最初に全体会がある。そこには、当然の如く「校長あいさつ」がある。そこで、いつもの如く考えた。何を話すかではない。原稿をつくるかどうかである。今回の対象は1年生の生徒と先生方である。保護者はいない。与えられた時間は3分程度である。どうも最近、私の話が短いことを見越して、設定時間が短くなっているように感じる。

今回は、原稿をつくらずに、原稿をつくることをずっと我慢して当日を迎えた。とはいえ少しは心配になり、原稿をつくるかどうか頭をよぎったが自重した。話の導入にはどんなエピソードをもって来るか。何を話の柱にするか。生徒にどんなメッセージを送るか。大まかなことは考えたが、結局原稿はつくらずに臨むことにした。私が話したのは以下の内容である。

私は、皆さんから見れば、ただのおじさんです。もし、自分が高校1年生の10月だったらと考えました。あと2年しかありません。就職するか進学するか考えると思います。進学にはお金がかかります。親に相談すると思います。人の話を聞きます。でも、いろいろな職業の方が目の前にいるわけではありません。学校の先生から話を聞きます。教え子がたくさんいて、いろいろなことを知っているとはいっても学校の先生は学校の先生です。

いろいろな資料を読んで情報を得るようにします。1階に進路の部屋があります。廊下にはたくさん資料が並んでいます。これは専門学校のガイドブック、これは福島県の企業の紹介、これは仙台の大学が載っているもの、これは仙台のアパートなどが載っているものです。午前中に一気に全部読みました。勉強になったし、おもしろかったですね。

ガイダンスというのは、不慣れな人、皆さんですね。不慣れな人に対して、初歩的な説明をすること、案内をすることです。この時間は話を聴いて考える時間です。皆さん、いい目をしています。真剣ですね。今日がスタートになります。

最後に皆さんにお願いがあります。ぜひ自分はどんな生き方をしたいのか、どんな人間になりたいのかを考えてください。就職することも進学することも大事なことです。どんな人生を送りたいのかはもっと大事なことです。皆さんならできると信じています。

この後、進路講演として外部講師による20分間の講演があった。1年生がメモをとりながら真剣に聴いていたのは言うまでもない。1年生一人一人にスイッチが入っていたのは明らかだった。

では、なぜ1年生は、真剣に話を聴くことができたのか。姿勢だけではない。目が本気だった。それは、この半年間で、先生方、なかでも1年生の先生方が生徒を育ててきたからである。成長させてきたからである。

例年とは違い、臨時休業期間があり、思うようにはいかなかったはずである。それでも、10月の進路ガイダンスに間に合わせてくれた。全体会が終わったあとに、進行を務めていた学年副主任の先生には直接「半年間で生徒たちをここまで育てていただきありがとうございます」と声をかけた。本来ならば、ガイダンス終了後に学年主任の先生にも声をかけるところだがやめた。この誌面をお借りして感謝の気持ちを伝えることにした。

きっとあの学年主任を前にして「この半年間でよくぞここまで生徒を育ててくれた。あなたの愛が、1年生の先生方の愛情が生徒にはちゃんと伝わっている」などと話したら、私が涙ぐむに決まっている。そして、あの学年主任はぼろぼろ泣き出す。容易に想像できる光景である。学年主任の思いを受け、チームで指導に当たっている1年生の先生方に感謝したい。